【様式】　令和4年度　福井県立丸岡高等学校　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援	a. 主体的な学びを促すための「個別最適な学び」「学習の個性化」や課題解決力向上のための「探究的な学び」実現に向けた指導法の研究に努める。 目標：学習に関する姿勢と指導法の評価指数 （実行度）80%以上	「十分できた」、「ある程度できた」と答えた教職員の割合が88%で実行目標を上回っており、昨年と比べて10%増加している。探究型学習の推進や今年度入学生から導入された観点別評価の目指す学力観に見合う指導法を研究しているためであると考えられる。今後、学習アプリの効果的な活用法や評価方法の研究を通して、一層の基礎学力の定着・向上を図っていく必要がある。	来年度予定されている視聴覚教育の公開授業に向けてICT機器の効果的な活用等含め、新学習指導要領が求めている学力をつけるための指導法や評価の研究に取り組み授業改善を目指していく。また校内だけでなく、他校、異校種の公開授業に積極的に参加しやすい体制をつくる。単元の目標や各授業の中で評価のポイントを明確にし、単元ごとまた授業ごとの理解度を確認したり、定期的に小テストを実施したりして、学習内容の定着を確認していく。
	b. 基礎学力の定着のために、個に応じた適切な課題を与えたり、個人面談を利用するなどして、家庭学習時間を増加させ、学習習慣の確立を図る。 目標：学習習慣確立についての評価指数 （実行度）70%以上	教職員からの課題提供は87%で昨年を下回ったものの目標値を超えている。家庭学習については、81%の保護者が「取り組んでいる」「ときどきしている」と回答しており、昨年を5ポイント上回る結果となった。全体として目標値を超えてはいるが生徒、保護者ともに「ほとんどしていない」との回答が20%近くあり、この点についての働きかけが必要である。	学びの基礎診断の結果から基礎学力の定着が不十分な点が見られる。また、県の学習状況調査の結果から、家庭でスマートフォンでのネットやゲームに時間をとられている生徒が多く見られるが、その割合は微減している。主体的な学習者を育むために、各教科、各学年で到達目標を示し、生徒自身が自己の課題を見つけて取り組んだり、教師が適切な量の課題を継続して与えたりすることが必要である。学習アプリの活用を促すことで、家庭学習習慣を確立させることが有効である。
2 生徒支援	a　学校のルールを自ら守る意識を醸成し、良識ある社会人になるための規範意識を身に付けることへの支援を行う。 目標：学校のルール遵守に関する評価指数 （実行度）80%以上	昨年度、生徒会を中心に学校のルールを見直し、現代の生活にそぐわないルールについて見直しをした中、生徒は自らが決めたルールを守ろうという意識がしっかりと見られた。 教職員においても、日頃の生徒の学校生活においてルールを自主的に順守できるようサポートしていた。 アンケートにおける実行度は99%だった。	今年度の生徒会活動を継続して支援し、今後も生徒が自主的に学校のルールを順守しようという気持ちを育むよう、サポートしていく。 また、現在のルールを守ったうえで、新たなルール変更が出てきた場合、生徒と教職員が検討を重ね、柔軟な対応を行う。
	b　生徒会活動、ホームルーム活動、部活動を通して、自主自立の精神を育む。 目標：特別活動への積極的参加に関する評価指数 （実行度）80%以上	近隣の中学校への学校訪問を生徒会が中心となって行い、本校のアピールを行った。さらに生徒会が企画した全校生徒を巻き込んでのレクリエーションなど、本年度は生徒主体の新たな試みが多く見られた。 ホームルーム活動や部活動にも積極的に参加する生徒が数多く見られ、学校に活気があった。 それに対する教職員のサポート実行度も90%を超え、目標数値を達成することができた。	生徒数の減少により、一部の部活動が部員不足に陥っている。他校でも同じ現象が起きているが、特に女子の運動部離れが目立つ。 本年度は、運動部、文化部それぞれ1部ずつ廃部とし、精選を図ったが、部活動顧問会議などで教職員、生徒の意見を聞きながら調整していく。
	・部活動を平日２時間程度、土日３時間程度にする。 ・年間を通じて、週あたり平日に１日、土日に１日以上の休養日を確保することを原則とし、大会日程等を考慮しながら、土、日、祝日において、年間５２日以上の部活動休養日を確保する。 (実行度) 70%以上	昨年度と比較し、更に実行度数値が向上し、90%を超えた。 「働き方改革」という言葉が社会全体に確実に浸透し、効率的に活動に取り組んでいくという考え方も定着してきた。 以前と比べ，部活動の時間を短縮したり、休養日を生徒に与えることで、集中力が増したり、学校生活にゆとりが生まれている。	今後も現在の流れを踏襲し、生徒も教職員も、ゆとりのある学校生活を送ることができるように、適正な活動時間となるよう調整を行う。外部指導者を積極的に雇用し、指導の充実と顧問の負担軽減を図る。
3 進路支援	a. 「今⇔未来手帳」(自己管理手帳)を活用し、自らのポートフォリオ(自己省察)を築いていける生徒の育成を図る。 目標：生徒の振り返りを行った評価指数 （実行度）70%以上	教員の「今⇔未来手帳」の活用指導に関して、取組度が75%であり、昨年の57%を大きく上回った。これは、「今⇔未来手帳講演会」実施後、教職員の活用意識が向上したことが原因である。生徒の学習や課外活動を通しての記録やふり返りの実行度も90%であり、目標の70%を上回った。	別冊「活動記録BOOK」は、１年間の自らの活動を生徒自身の表現で記録し、振り返るもので、入試に必要とされる調査書や活動報告書に活用される内容に精選している。薄く回収しやすいもので、生徒のポートフォリオ（自己省察）の蓄積には最適であり、今後も活用していく。
	b. 進路学習や探究活動、進路情報提供等を通して、主体的に進路を切り開いていける生徒の育成に努める。 目標：生徒の進路実現に向けた取組についての評価指数 （実行度）70%以上	生徒個々の進路探索や進路実現に対する主体的な取組度は、１，２年生78%、3年生は96%と目標70%を上回った。オープンキャンパスや進路ガイダンスについては、積極的に全学年に案内をし、参加者も多かった。 進路学習としては、１，２年生は自分の可能性を広げるため、仕事・学問・学校調べや適性診断を活用した。3年生は、生徒個々の進路希望先に応じた面接・小論文指導などを全教職員で対応した。	来年度も継続して目標に取り組む。 進路実現の為には、”教科の学力”と”探究”の両軸で進み、入試力(小論、面接も含む）をつけていくことが必要である。2・3年の探究課題を、生徒の進路志望に沿った課題とし、進路意識や探究力の向上につなげる。また、生徒が具体的な進路志望先を2年次2学期までには決定し、進路志望先が求める学力向上に取り組めるよう支援する。

4 保健管理	a自他を尊重するとともに、心身の健康管理に努める。 目標：心身の健康管理に関する評価指数 （実行度）90%以上	自分の健康の保持増進について、生徒は「十分できた」、また保護者は「ある程度できた」と回答している割合が多く、全体としての目標は上回っているが、保護者にとっては未だ不十分だと感じる点があるようである。新型コロナウイルス感染症対策である、検温、マスクの着用、うがい、手洗い、手指消毒の他、食事中のマナーなどがしっかりと身につき健康への意識が高まり、健康の保持促進を促した。毎月の保健室だよりや、保護者会時の保健だよりの発行、および保健整美委員による昼休みの放送での呼びかけなどの成果が表れた。今後も、生徒が感染のリスクを自覚し、正しい感染予防行動を継続していくことが課題である。教育相談では、年９回のアンケート（心と体の健康調査、いじめアンケート、各学期の振り返りアンケート、ＱＵ）を行い、その後は面談を実施して早期の対応を行った。相談室利用者や保健室利用者に対し日々個別の対応を行ってきた。	これまで通り、生徒が健康に高い関心を持ち、自己管理に努めるよう呼びかけていくとともに、毎日のＳＨでの健康観察や各種健診を行う中で、校医・担任・保護者・関係教員とも連携を図り、疾病の予防に努める。保健室前や横の掲示板を利用し、季節に応じた時事的な内容の掲示物を掲示するなどして、生徒の心身の健康への知識習得、活用に繋げていく。保健整美委員会の活動としては、体育祭での熱中症対策や、感染症対策の注意喚起活動を行う。教育相談では、アンケートの活用方法を考え、生徒の訴えを見落とさないようにする。今後も通級指導、支援会議などを通じ、気がかりな生徒に対して迅速に対応していく。来年度は、コロナの分類が２類から５類へ引き下げられるが、これまで身につけてきた自己の健康維持についての取り組みを継続する。
	b安全で、美しい環境を整えることに努める。 目標：環境整備への取組みに関する評価指数 （実行度）90%以上	保健整美委員会による清掃強化週間を設け、清掃に必要な備品を整え清掃に取り組みやすい環境になるよう努めたことで、今年度も「十分できた」「ある程度できた」と答えた生徒が昨年同様の98%であった。また、教員も昨年同様100%となり、環境整備への意識の高さを維持している。教員数の減少により監督場所が複数箇所に及んで広範囲となっていることが課題である。	生徒が環境美化に対する高い意識を継続し、さらに自主的に清掃に取り組むために、来年度も保健整美委員会による、清掃週間活動の丁寧な呼びかけを実施する。また学年末には大掃除の時間を確保し、普段できない部分の清掃を行う。来年度も生徒減、教員減により担当場所が、複数個所、広範囲になることが予想される。そのため効率よく十分に清掃や監督ができるよう清掃区域の見直しを図り、毎日同じ場所を清掃するのではなく、曜日によって変更したり当番制にするなど方法も考える。
	・週１回、ノー残業デーを実施し教職員は定時退庁とする。 ・会議や行事を精査し、簡素化、削減を行う。 （実行度）80%以上	ノー残業デーの実施、定時退庁について「十分できた」「ある程度できた」と答えた教職員は、昨年は63%であったが今年は84%と大幅に増加した。会議ではタブレット使用によるペーパーレス化を行い、仕事の効率化を図った。またノー残業デーに対する意識が少しずつ変化し、働き方改革への意識が高まっている。行事の精選も継続して検討しているが、さらに業務改善への取り組みが進むとよい。	仕事の持ち帰りや、見えない残業が増え、自分のペースで仕事が出来ない可能性もあるので、注意が必要である。学年会、教科会、校務分掌などで業務調整を行い、体調を崩さないで勤務できるような体制を整えていく必要がある。また各自が仕事や体調管理を考えながら年休、特休を積極的に取得していくことも必要である。会議や行事の簡素化、会議時間短縮などの取り組みは今後も続けていく。
5 図書整備	a 図書委員会活動の活発化・教員の利用促進など図書館利用を高めるための環境づくりに努める。 目標：図書館利用度に関する評価指数 （実行度）70%以上	教職員の朝読書や教科指導などを通じての読書促進指導の取組度は83%であり、目標を上回っている。一方、図書館を読書の場だけでなく多様的に使用できるような環境作りに努めているが、生徒の図書館活用度に関しては実行度が69%で、目標をわずかに下回った。	来年度も継続して目標に取り組む。今年度、館内環境の整備として畳コーナーや円卓の設置、マンガ・ライトノベルの充実を図り、リラックスできる場所作りを行った。また、3学期からは朝読週間時には学級文庫に加え展示書架を各クラスに設置し、開始前には準備を促す放送を、日替わりの音楽とともに流すなど工夫をした。来年度もこれらのような図書館行事、館内環境を充実、継続させ、定期的な図書新聞発行を通じて、読書、図書館利用を推進していく。
	b 社会、教職員、生徒のニーズに合わせた資料を収集、整理、管理する。また、市町図書館と連携し、必要に応じて資料を借り入れるなどして、図書館資料を充実させる。 目標：図書館資料の充実に関する評価指数 （実行度）70%以上	図書の購入について、生徒のニーズに応じた教職員の書籍希望や相談しやすさの達成度は92%であり、目標を大きく上回った。また、図書館･学級文庫の本や資料の揃え方についても、92%の高い満足度を得られた。	普段より生徒、教職員問わず本のリクエストも随時受け付けており、迅速な購入により好評を得ている。また、幅広い分類の本を購入するために各教科から年3回程度、全国学校図書館協議会選定図書リストを用いて本の選定を行う方式をとった。さらに、図書委員が主体的に行動し、実際に書店に赴き図書の選定、購入を行った。来年度もこれらの活動を継続していく。
6 広報活動、PTA･同窓会活動	a. 本校の学校教育の現状について、積極的な広報活動を行い、地域や保護者等との連絡連携を深める。 目標：保護者との連携に関する評価指数 （実行度）70%以上	学校行事やPTA・同窓会活動の内容を理解し、広報に努め、活動に協力することが「十分できた」、「ある程度できた」という回答が昨年度の83%を上回り100%となった。保護者との連携のみならず、生徒とともに積極的に地域社会や、地域の中学校へ出かける活動を行うことができた。今年度は、新たに地元中学３年生の全保護者に対し、本校へのニーズを問うアンケートを実施した。	コロナウイルス感染症対策によって縮小されてきた行事や活動が、徐々に戻りつつある中、今年度のような生徒を巻き込んだ取組も維持・発展させていく。地域のニーズに応えるために、多様な機会を捉え意見を集約していく。
	b. 学校教育と連携を深めながらＰＴＡ・同窓会活動の充実に努める。 目標：ＰＴＡ活動の活性化に関する評価指数 （実行度）70%以上 目標：ＰＴＡ活動の活性化に関する評価指数 （満足度）70%以上	学校行事、PTAおよび同窓会活動の内容について、「知る機会を得ている」・「理解できた」という回答が目標値を超え、昨年よりも上回っている。HPを新たにしたこと、学校祭、マラソン大会といった行事にPTAの協力を得てPTAだよりの紙面充実を図った。	学校行事、PTAおよび同窓会活動の内容について、「知る機会を得ている」・「理解できた」という回答が目標値を超えてはいるものの、全くできなかったという回答が4%ある。PTA役員と連携し、広報活動がいきわたるような働きかけを進めていく必要がある。同窓会役員会を開き、「地域みらい留学」生支援などについて理解・協力を求めていく機会を設ける。

【様式】 令和4年度　福井県立丸岡高等学校　学校関係者評価書

（問）　・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
　　・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
　　・その他

（意見を聞いた方）
PTA会長　松下陽一　様
坂井市総合政策部次長企画政策課長　三上寛司　様
丸岡城天守を国宝にする市民の会理事長　大濃孝尚　様

（意見欄）

〇教育課程・学習支援
・教育にもデジタル化が進んでいるように見受けられる。生徒もオンライン授業、オンライン交流を当たり前にやっている。
・グローカル事業は昨年度で終了したが、学校設定教科や部活動を通じて台湾やデンマーク等との交流事業が継続しているとのこと、引き続き継続していただきたい。

〇生徒支援
・生徒会活動、ホームルーム活動、部活動に積極的に取り組む生徒の割合が上昇して90%を超えており、驚きである。生徒会が主導して、コロナ禍でも地域に出かけたり、小中学生と接したりして、丸岡高校の良さをもっと宣伝して欲しい。

〇進路支援
・今年度も一般入試に加え、探究活動の成果を活かして推薦入試や総合型選抜で多くの生徒が国公立大学をはじめとする大学に進学している。
・地域ボランティアに多くの生徒が協力してくれて助かっているが、勉強がおろそかにならないか心配であった。しかしボランティアに積極的な生徒は他のことも熱心に取り組む、生徒が社会に出ることは学びにつながる、という話を聞いて、安心した。

〇保健管理
・ノー残業デーの実施、定時退庁について、「十分できた」「ある程度できた」と答えた教職員が、昨年度の63%から今年度は84%に上昇している。職員会議のペーパーレス化や会議の時間短縮等の工夫によるとのことだが、短期間で大幅な意識改善と効果が見られる。

〇図書整備
・図書館が果たす役割が大きい。畳コーナーや円卓の設置といった館内環境に加え、ビブリオバトルや作家とのオンライン会議等、センター的な機能を果たしている。今後はさらに図書館のデジタル化が進むとよい。

〇広報活動、PTA・同窓会活動
・マスコミにいかに数多く取り上げられるよう工夫をすることが大切である。イベントを実施してもお知らせが抜け落ちてしまうのはもったいない。校内だけではできないことをPTAとの連携で実現していくとよい。情報を見える化することが効果的である。
・広報については、地域みらい留学の事業で工夫したことや反省点を活かしていくべきである。

〇全体（総括）
・探究的な学びの中で、地域の方や議会に課題を提案するだけでなく、提案を実現し、一緒にまちをつくってもらいたい。行政はその提案を実現する支援ができればと考えている。
・教育目標の「地域への誇りや愛着を涵養し」という点が重要である。行政も一緒になっていきたい。指標の充実度を測り、自ら行動することにつながっていけばと期待している。
・市民の会の活動と同様、丸岡高校には学校のファンになってもらえるような活動をして欲しい。学校全体の取り組み自体が学校の魅力化につながると思うが、これからも継続して実を結ぶことに期待している。

（学校関係者評価を踏まえた今後について）
いただいたご意見やご指摘を真摯に受け止め、次年度の教育活動に反映し、各校務分掌で、さらなる学校づくりの質向上を図ります。コロナ禍の中でも、地域との交流の機会を設け、学校の魅力発信に努めるとともに、生徒の進路実現を目指して学力と探究活動の両面での支援を工夫します。
　特別活動への積極的な参加や自ら健康を管理する態度の育成、安全や環境整備に対する意識の涵養、幅広い教養を身につけさせる読書活動推進を今後も継続し、いっそうの充実・発展に努めて参ります。
　教材研究や自己研鑽に励むとともに、業務のオンライン化、デジタル化を推進し、働き方改革をさらに進めていくことに努めてまいります。
また地域や保護者の方とのさらなる連携を図り、生徒が主体的に活動できる丸岡高校生を育てる努力を重ね、地域との協働による持続可能な教育活動を目指し、地域から信頼を得る学校づくりをめざします。